自転車先進国のサイクリストたち

循環とくらし編集部

最近、その自転車政策において世界から注目を浴びているイギリス、ロンドンシティ。そして、自転車先進国と呼ばれているオランダやドイツ。かたや、なか自転車政策が実現できない日本。自転車先進国に住んでいる自転車乗り達の感覚って、日本のそれと違うから?そんな疑問から、海外のサイクリストたちに、思うところを語っていただきました。海外の自転車政策の様子については、本誌24ページ古倉氏の記事で紹介しています。



ロンドンシティ フレッド・イージー 自転車通勤歴11年 ロンドン市在住

僕は11年前に煙草をやめてからずっと自転車通勤しているんですね(写真1)。だからロンドン市が交通政策「スマートムーヴ」[†]をやり出す前から乗っていることになります。仕事で大変なことがあった後でも、自転車に乗って帰れば、リラックスできて、頭をスッキリさせられるので、体調をキープできます。ロンドンのチューブ(地下鉄)は、ラッシュアワー時はすこぶる混むので、もっぱら自転車通勤の方が良いですよ。

それに、他の交通手段よりも安くつく。修理や新品のパーツに支払うのに年間約500ポンド(約6万1,000円)かか



写真1 ロンドンの早朝、自転車通勤者たちが職場に向かう(フレッド・イージー氏撮影)

るけれど、チューブの定期代は約2倍の1,000ポンド(12万2千円)になって しまいます。

マイナスの面は、盗難にあうこと。 僕は過去11年間の間に3回も盗まれて しまいました。自転車泥棒はロンドン でも大きな問題になっています。普通、 僕は夜間には安全な場所以外には自転 車を置かないようしています。30分 以上外に置いておく場合は、ホィール が盗まれないように重たい鍵を2つと ケーブルをつけています。

それと確かに、危ないということはあります。ロンドンは本当に道が混み合っていて、マナーの悪いドライバーも何人かいますから。この11年間で、僕も2、3回、事故の経験がありますよ。それでもラッキーだったことに、病院に行くに至りませんでした。

事故にあってからはもっと注意深く

[†] CO2排出を少なくする移動を掲げ、環境に優しく、便利・快適で、健康にもつながるライフスタイルの普及を目指す政策

なって、今ではドライバーは僕を見ていないことを前提にして、自転車で走るようになっています。

でも、最近できた「サイクリング・スーパーハイウェイ」(写真2) のおかげで、もっと安全に走行できるようになりましたよ。このサイクリング・スーパーハイウェイは、ロンドン中心部から放射線状に伸びる、青色のペンキが塗られた自転車専用レーン網で、ロンドン市長がやり始めたスキームの一つです。

事故にあっても自転車に乗り続ける だけの自転車の魅力は何なのかって? それは、何と言っても、自由という 感覚ですね。

日本との自転車事情の違い



■ イギリス編

ポール・デルハンティ氏 元ケンブリッジ、現在三浦市在住

ケンブリッジは、ちょっと他のイギリスの街とは事情は違います。典型的な英国の街ではないんですね。街に自転車がいっぱい走ってて、クルマに乗っている人も自転車の存在に慣れていて、平均的にわりに思いやりもある方だと思います。

ケンブリッジより、たとえば僕の両親が住んでいるウェリン・ガーデンなんかが、イギリスの典型的な事例だと思いますね。自転車が車道を走る事に関しては、日本の事情とよく似ていて、ドライバーのほとんどは自転車は車道を走るものではないと思っています。だから、ケンブリッジのドライバーの



写真2 ロンドンのサイクリング・スーパーハイウェイ。原則幅1.5m。右手には共有自転車のボリス・バイク。ともにスポンサーのバークレイズ銀行のカラーである青色が塗られている。

(フレッド・イージー氏 撮影)

ような思いやりが見られません。

ただ一つ日本と違うのは、日本では 歩道を自転車が走ることを許されてい ますよね。最近、自転車は車両で、車 道を走った方がいいと言われているよ うですが、僕の住んでいる三浦市では 自転車で走っているとドライバーから クラクションを鳴らされるのは珍しい ことじゃないから、おそらく自転車は 車道を走るべきじゃないと思われてい るようです。

歩道走行が原則禁止のウェリン・ガーデンでも、車道を走っているのは、本格的なサイクリストだけです。自転車が歩道を走るのは、車道は危険だけど、歩道は広いからです。でも、何人かは凄いスピードで歩道を突っ走るもんで、高齢者(例えば僕の両親)は、大声で文句を言いますよ。両親から聞いたことは、彼らが若かった時代には、自転車が歩道を走ることは絶対に禁止されていて、警察に厳しく取り締まら

れていたそうです。当時は、道路は自 転車にとってそれほど危険ではなかっ たのでしょう。

日本では、ベルを鳴らせば歩行者は 道を避けてくれますよね。多くの歩行 者の脇を速いスピードで走り過ぎるの に、歩行者はほとんど文句を言いませ ん。その上、自転車に乗りながらケイ タイメールを読んだり書いたりしてい る人も結構な数がいて驚かされます (こんなことに目くじらを立てるのは、 僕が時代に乗り遅れてるって証拠かな (笑))。



ドイツ編

クリスチャン・ストゥッツ氏 バイエルン州ヴァーギング在住

僕は、ベロモービル.NI製のクエスト (フェアリング (覆い)の付いた高速 三輪自転車の一つ) に乗っています(写 真3)。京都に数週間いたんですが、自 転車で走ってみて、ドイツとの大きな 差は、恐らく、日本には自転車専用レー ンがほとんどないということに尽きる と思います。日本っていう国は、生活 するうえで、より使い勝手をよくする のにいっぱい規定や規則があるのに対 し、自転車走行にはそれがありません。 日本に来た当初は、そういった自転車 事情と折り合いをつけるのは簡単じゃ なく、とりわけ歩道(自転車乗りも走 ることを許されている)を走るときに はきつかったですね。これは、僕の今 までの感覚から言えば、効率がすこぶ る悪いだけ。もう、内心イライラして いました(笑)。助かったことは、出 くわす他の人たちが、僕がイライラし

ていることに気つかずにいてくれたことでした。つまり、僕に対して全然攻撃的ではなかったことです。これは基本的に文化の差なのかもしれないですが。

エコロジーの観点から見れば、大都 市の公の交通手段と比較して、自転車 は非常に優れた持続可能な交通手段で す。というのも、動くときに大きな音 がしない、ゼロ・エミッション、駐車 場もスペースが少なくてすむ、お金が かからない、製造時(および廃棄時) のエネルギー消費が低い。自転車乗り の立場からは、自分で時間を自由に調 整できるし、健康にもなるし、事故が 起こったとしても通常、明らかに大事 故になることは少ない(バスやクルマ と比較して)、ただしこれは自転車専 用レーンでの話です。それから、保険 会社もまたおそらく事故負担額が少な くなるでしょう。残念ながら、大都市 では、そうそう簡単にスピーディーに 自転車専用レーンなんて新設できない だろうと思います。空間は限られてい るわけだし、特に日本はそうですよね。

社会が本当にサスティナブルなサイクルシティを望むとき、または差し 迫った状態(都会の排気ガスとか資源



写真3 クリスチャン・ストゥッツ氏と愛車のベロモービル.NI製のクエスト

不足とか、原油の高騰とかの問題)に なったときにしか、本当に変わってこ ないのではないかと、僕は思います。

僕のいきつけの店、トラウム・ベロ (http://www.traumvelo.de/WCMS/)では、リカンベント(寝そべったような姿勢で乗る自転車)や3輪の自転車を基本に、レハファラード(リハビリ用自転車)も、顧客のニーズに合わせてアンドレアス・ザイリンガー店長が、カスタマイズしていますよ。



写真4 トラウムベロのザイリンガー夫妻。「リハビリ用自転車のオーダーメイドについてですが、その人に一番フィットした自転車を、一緒に作り上げることが楽しいんです。だって自転車を愉しむのに、健常者も障害者もないですから」。

オランダ編

ディック・ラートフェーラ—氏 ライデン市のサイクリスト

オランダだって、日本と同じように ごちゃごちゃしていますね。他人のこ となんて無視して全く考えてもいない し、駐車したいところに自転車を止め るしね(笑)。市は、そういった自転 車を撤去していて、された人は中央の 集積所に自転車を取りに行かなくちゃ いけないのだけど。もちろんお金を 払ってね。残念ながら、撤去された人 が市を相手に訴訟を起こして、自転車 が安全を脅かしていない限り撤去しな いということになってしまい、だから 引き続きまだどんなところでも置かれ てます。

オランダ人が自転車に乗るのは、街中では凄い交通渋滞があって、自転車を使う方が便利だから。僕にとっては、あちこち動き回るのに、公共交通や自家用車よりずっと速いという理由が一番ですね。今でこそ、環境に良いという理由や、健康に良いからという理由をあげる人が増えたんですけども。

自転車のインフラは、とっても充実していますね。自転車専用の特別なレーンはあるし、まだ少ないけどバイシクル・ハイウェイ[†]と呼ばれる、農村地域から街に連絡するために特別に造られた自転車道もあります。

もちろん、誰でも一度は自転車を盗まれたという経験があります。特に都会に住んでいれば。時には、ジャンキーが売る為に自転車を盗むってこともあるし、時には、どこかに行くて、能かの自転車をちょっとは背借して、そのまままた放置するっていうことに、20年このかた都会に住んでいて、ただ一回、自転車を盗まれたことがあっただけれども、それは自分で見つけました。もちろん、持って帰りましたよ!

[†] 自転車が優先走行されるので、交差点ではクルマは自転車が通り過ぎるまで待たねばならず、自転車はノンストップで走れる。道路に□と△のマークが表示されており、優先順位が示されている